

会 議 録

1 会議名

令和5年度第13回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【自主的審議事項】

・直江津まちづくり構想について（公開）

3 開催日時

令和6年2月6日（火）午後6時00分から午後7時18分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 第三会議室

5 傍聴人の数

6人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委 員： 青山恭造（会長）、田中美佳（副会長）、磯田一裕（副会長）、
今川芳夫、久保田幸正、田中 実、田村雅春、中澤武志、古澤悦雄、
増田和昭、丸山岳人、水澤敏夫、水島正人（欠席者3名）
- ・魅力創造課： 渡来課長、市村係長、井部主事
- ・事 務 局： 北部まちづくりセンター：佐藤所長、近藤副所長、小川係長、
丸山主任

8 発言の内容

【近藤副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青山会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：今川委員、久保田委員に依頼

議題【自主的審議事項】直江津まちづくり構想について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

審議の参考とさせていただくため、上越市通年観光計画（案）について、担当課から説明を受けることとした。本日は、魅力創造課から計画の概要と直江津地域に関する内容を中心に説明いただいた後、質疑応答の時間とさせていただく。

【青山会長】

それでは、魅力創造課から説明をお願いします。

【魅力創造課：渡来課長】

・挨拶

上越市通年観光計画（案）の概要と直江津地域における通年観光計画に基づく取組案についてご説明させていただき、その後、意見交換、ご質問などを受けてまいりたい。

【魅力創造課：井部主事】

通年観光計画については、昨年度から、春日山、直江津、高田の3つの地域で活動する方々から、地元の大切な宝を観光資源として高めることや、通年観光のあるべき姿など様々なご意見を伺ってきた。本年度は、より具体的な方策について地域の皆様と議論を重ね、昨年11月には本計画の中間とりまとめを、1月23日には上越市通年観光計画（案）を、市議会通年・広域観光推進特別委員会に説明をしたところであり、現在パブリックコメントで意見募集を行っている。本日は、上越市通年観光計画（案）の概要、直江津地域に関する内容についてご説明させていただく。

最初に、計画の構成について簡単に説明させていただく。資料は2枚目、目次をご覧ください。目次に記載のとおり本計画は4章で構成されており、1章と2章では計画の概要、通年観光の策定に至った背景を記載し、3章ではその背景に基づく各地域の方向性を記載している。4章では、各地域における具体的な施策とスケジュール、概算の事業費を記載している。

5ページをご覧ください。上越市通年観光計画の概要である。通年観光計画の計画期間は、令和6年度から令和12年度までとしている。通年観光の取組では、「歴史・文化の伝承」を目指す姿に掲げている。人口減少を背景とする地域の課題や担い手の減少について、観光という手法を用いて、歴史や文化を伝承、継承していくことを目指す姿としている。また、滞在時間の増加や稼ぐ仕組みの構築を意識し、目的を達成する手段として、観光地域づくりを進めていきたいと考えている。本計画の数値目標としては、

イベントを除く3地域の月別観光客数を、令和元年度比の1.3倍とすること。また県水準の約半分となっている、県外からの観光客の一人当たりの消費額を、県水準まで高めていくことを目標に掲げている。8ページから38ページでは、詳細の説明は省略させていただくが、通年観光の背景として、人口減少や若年層の流出などの上越市の課題、国の観光施策、イベントへの依存傾向や、宿泊施設の状況、女性の活躍など、上越市の観光の現状について資料に掲載させていただいた。

45ページをご覧いただきたい。45ページからは通年観光計画の基本方針を掲載している。47ページ、通年観光計画の考え方については、今ほどご説明させていただいたとおり、歴史・文化の伝承を目指す姿としている。続いて48ページ、こちらに記載している観光地域づくりは、上越市を取り巻く地域の課題の解決に向けて、「まち・暮らしづくり」と「新しい観光産業」の創出を両立させることにより、地域全体が潤う新しい観光の視点を取り入れていくものである。地域の歴史、文化の継承や市民のまちへの誇りや愛着の醸成、また地域の資源を生かした生業の創出など、観光を通じて住んでよし、訪れてよしの観光地域づくりを進めていきたいと考えている。49ページをご覧いただきたい。観光地域づくりにおける観光客の考え方についてご説明する。上越市通年観光計画では、より滞在時間を延ばす、何度も訪れる、長く滞在するといった、関係人口と呼ばれる上越市のファンを増やすことで、将来の移住につなげていく効果も期待し、滞在交流型の通年観光を一つの観光地域づくりの理想としている。その中で、この計画期間では、まずは日帰りの観光客の滞在時間を延ばすことや、宿泊日数を一泊から二泊に増やしていくことを目的にしていきたいと考えている。50ページをご覧いただきたい。このページでは上越市における現在の観光客数と、通年観光が最終的に目指す姿のイメージをグラフ化したものである。年間を通して観光客が一定数訪れることで、民間の観光サービスが生まれている状態を最終的な理想の姿とし、この計画期間では、主にイベントを除いた観光客が現在よりも増加していくことを当面の目標としている。

観光地域づくりのコンセプトについて、78ページをご覧いただきたい。全体計画では、「越後の都 誇れる上越の3つの暮らしと心意気」を観光地域づくりのコンセプトとして、3つの地域のそれぞれの多様な暮らしと歩んできた歴史、そこに裏付けられた文化や精神を大切にしながら、それぞれの地域の特色を生かした、各地域のコンセプトを整理している。重点地域の一つである直江津地域は、「歴史と人情の『日本海うみまち』」をコンセプトとしている。ページが前後するが、68ページをご覧いただきたい。この

あとご説明する、直江津地域、日本海海岸エリアの将来イメージということでパース図を掲載している。直江津屋台会館や海浜公園、船見公園での出店、キッチンカーなどによる賑わい創出のイメージを表している。

次に、第4章地域別の施策展開について説明させていただく。89ページをご覧ください。直江津地域では、レールパークエリアと日本海海岸エリアの各エリアの特性に沿って事業を展開していく。90ページをご覧ください。レールパークエリアである。(1)上越市鉄道遺産群活用事業では、市内全域の各種鉄道遺産を上越市鉄道遺産群として保存し、一時代を支えた鉄道の歴史や文化を後世に伝えていくため、市内の鉄道遺産群の活用計画を策定する。その取組の一環として、新潟県鉄道発祥の地である直江津D51レールパークを一部鉄道遺産の集約施設として位置付け、整備・保全・継承していきたいと考えている。資料展示の機能を拡充するとともに、鉄道OB会をはじめとする地域の方々が大切に守ってくださった五智公園のD51-75蒸気機関車を直江津D51レールパークに移設し、コンプレッサー方式による動態保存により乗車体験や運転体験を行いたいと考えている。スケジュールとしては、おおむね中期に取り組みたいと考えている。92ページをご覧ください。日本海海岸エリアである。直江津屋台会館と隣接する海浜公園では、うみがたりの来場者をターゲットに、年間を通じたにぎわいを創出させる社会実験を行いたいと考えている。定期的なイベントや飲食、物販の出店などを行うことで、地域の人が気軽に出店でき地域で稼げる仕組みの構築を目指している。社会実験を通じて、直江津屋台会館と海浜公園の新たな利活用や、必要な環境整備について検証を行うとともに、直江津地域を一体的にマネジメントできる持続可能なまちづくり組織の可能性についても検討を行いたいと考えている。

船見公園は、海辺を活用したアクティビティ、また誰でも利用できるイベントスペースや店舗の出店など、社会実験を行いながら新たな可能性を検討したいと考えている。また冒頭会長からお話もあったが、船見公園の利活用については、能登半島地震を受けて、社会実験の実施までに防災面からの検討をさらに行っていきたいと考えている。スケジュールとしては、屋台会館の周辺を前期から先行して取り組みたいと考えている。93ページをご覧ください。直江津地域では今ほど説明したものの他に、回遊動線の取組として、誘導サインの整備やレンタサイクルによる二次交通の整備を行う。スケジュールとしては、掲載がある久比岐自転車道の誘導サイン、それからレンタサイクルは前期に取り組み、その他のサイン計画などは、周辺の様々な取組が実施された後の後

期に整備したいと考えている。今ほど説明したエリア別の施策は、令和12年度までの具体化をめどとする施策の構想とするものであり、施策の事業化にあたっては、財源、優先順位の検討により、計画期間における実施を判断していきたいと考えている。

【青山会長】

説明していただいた計画の概要や直江津地域に関する質問、意見等はあるか。

【古澤委員】

計画の概要について説明があったが、この具体的なもの、何をやるのか、どういうことをやるのか、誰を対象にしてやるのか。或いは、磯田副会長が直江津を活性化するためのワークショップ等を開催し、いろいろな意見も出ている。それらを参考にするのか、しないのか。地域協議会でも、直江津を活性化するためにどうするのかといった部分で具体的なものが出ている。この計画案では、実際何をやるのか具体性がない。例えば、夏の祇園祭にあわせて店舗を設けるとか、マルシェを設けるとか、或いは市のときに小学校の方から来てもらい、ブラスバンドを見てもらえるなど、そういったものを出していただかないと、ただ言葉上で説明をされてもわからない部分が多々あるので、そのへんの具体的なものはこれから構築するのかなと思うが、それをきちんと出してもらいたい。それとあわせて、直江津は直江津祇園祭が一番の目玉になっている。直江津全体の方が直江津祇園祭一本に絞られて、にぎわいも増す。そして、うみまちアートも3年継続してやっておられ、にぎわいを呈している。そういったものを利活用しながら、具体的なものを組んでいただき出していきたいと思う。

【田中実委員】

通年観光計画(案)を確認させていただいたが、15点ほど質問させていただきたい。その返答は必ず我々の任期の間に返してほしい。

1点目、市のトップが通年観光については、歴史・文化を主軸に検討すると言っておられるが、この計画書では、直江津地区については歴史がないのか。各地の現状だけの報告でしかない。実効性、実施性、計画性が全くない。2点目、あまりにもキャッチコピーが多く表現されている。ほとんどぼらつき、統一性がない。3点目、この社会実験は誰が実施し、計画はどのように実施されるのか報告をお願いしたい。4点目、地区の市民団体とはどのような団体なのか。5点目、屋台会館において、お土産店、食事ところは、どのような計画でやられるか返答を願いたい。6点目、直江津地区の費用は10億円と発表されており、レールパークの移動が計画されていると聞いているが、この移

動費用の内訳が知りたい。7点目、船見公園の特出性について、本当に皆さんが理解されているのかどうか。8点目、この通年観光資料としては、中身があまりにも悠長すぎる。いろいろな資料を集められて、提出されたのだろうと思う。9点目、6年間の時間を有しているが、全くスピード感がない。6年の間では、今現在の担当者、我々も含めて、いろいろなところに異動されて不在になってしまうので、スピード感をもっと早めていただきたい。10点目、船見公園は夕日がきれいだと言いながら、現在の状況では、観光客はごみだけを見て上越を去っていただくような状況である。11点目、直江津地区の10億円の内訳等は5ページにあるが、実際に本当にこの事業が必要なのか。12点目、直江津への旅行者は、水族館だけが見学できるような状況であり、他にも何か回遊できるような状況は作れないのか。13点目、我々住民は、このキャッチコピーだけでは決して騙されないので、本当によく検討し実施していただきたいと思う。14点目、第一義というような表現があるが、これは仏教語であり、仏教語では第一から第二、第三義まである。あまりにもこの義の表現はよくない。義を訳すと、空という意味だそうである。15点目、総事業費は50億も投入されているが、この3地区の関連性が全くない。かえって3地区が分断されている。春日区においては37億円。直江津地区については10億円。これに対して高田地区はたったの2億円ということは、高田地区は全く魅力のない地区なのか。冒頭にも申し上げたが15個言わせていただいた。必ず返答をいただきたい。

【青山会長】

今の質問に対して、どうか。

【佐藤所長】

今ほど15項目ほど質問があり協議会へ返してくれというお話だが、これは広く皆さんにお伝えするようなご質問、答えになるかと思う。今パブリックコメントの意見募集中なので、田中実委員、パブリックコメントのほうに提出していただき、回答をいただくということではいかがか。また、協議会の中で協議していただきたい。

【田中実委員】

私はこの地域協議会の場で発言させていただいたので、私個人ではなく、今出席なさっている方全員がわかるような形で返答をいただきたい。

【魅力創造課：渡来課長】

今いただいたご質問は、任期中にお返しをするようにとご要望があった。事務局から

も話があったが、パブリックコメントを今実施している。それはどういうものかという
と、今計画の案を公表させていただいており、1か月間、市民の皆さんからいろいろな
ご意見をいただいて、修正すべきところがあれば修正をする、反映すべきところは反映
をする。いろいろな検討の過程で、出された意見については、こういう理由で今回は含
めることができなかつたといった理由も添えて、ご意見をお返しするという制度になっ
ている。ついてはその制度のほうにご意見をいただければ、今、事務局からも話があつ
たとおり、この協議会だけではなく市民の皆さん全員にお返しをすることができるので、
パブリックコメントにご意見を出していただくことでよければ、そちらで承らせていた
だきたいと思う。そのような扱いでよいか。

【磯田副会長】

今日の場合は、地域協議会の中で意見交換をするということになっていて、担当部局の
魅力創造課にも来ていただいて、パブリックコメントでは言いづらい、書きづらいとい
うようなことも、この場で忌憚のない意見交換をさせていただくという趣旨の場だと認
識している。今日の回答が全然なくて、或いは意見のやりとりがなくて、全部パブリッ
クコメントで対応するというのであれば、今日来てもらわなくてもいい話である。田中
実委員がおっしゃった15点全部をこの場で回答していただくというのはさすがに難し
いので、田中実委員も任期中にコメントをいただきたいというお話だった。今日持ち帰
り、次の協議会のときまでに文書で出すとか、そういう対応はできないのか。すべてパ
ブリックコメントでやるのなら、今日ここに集まっている人たちは、意味がないのでは
ないかと思ってしまう。ちゃんと意見交換や思いをぶつけ合うような場にしたいと思う。

【青山会長】

磯田副会長の話はもったもな事だと思つるので、是非答えられるところは答えていた
だきたい。

【魅力創造課：渡来課長】

今日お答えできるところはお答えをして、それ以外のところは文書でお返しする扱
いでよいか。

【佐藤所長】

次回までというつと、ご意見が十数件あり難しいと思つるので、皆さんの任期のある4月
末までに、お答えをさせていただくというつとでよいか。

【田中実委員】

冒頭に申し上げたとおり、私は今ここで返答をくれということは一言も言っていない。要するに、我々の任期中に報告書がほしい。なので、パブリックコメントは全然関係ない。

【魅力創造課：渡来課長】

どういう扱いにするのが一番よいのかというのは、事務局から提案があった上で、会長からもここで答えられることはここでということであり、田中実委員からも、さらにご発言をいただいた。ここで答えられることは、今答えさせていただき、それに補足するような形で必要なものは文書で追ってご説明をさせていただくという形で進めさせていただきたい。

【田中美佳副会長】

先ほど古澤委員から、具体的な内容を示してもらいたいという質問があったが、それを私も聞きたい。具体的な内容があると思うので、田中実委員の質問ももちろんだが、古澤委員の質問にも教えていただける範囲でお答えさせていただきたい。

【魅力創造課：渡来課長】

まず、古澤委員からお話があったとおり、具体的にはこれから予算なども絡む中で決めていくようになる。もちろん議会と議論をさせていただき、予算を認めていただいた中での進捗になるため、この場で具体的な詳しいところまではお答えできかねるところもあることはご理解いただきたい。先ほど古澤委員からもお話があったが、磯田副会長がご検討されているワークショップの発表が先日あった。私どもも出席をさせていただき、非常に熱心にご議論いただいていたことはよく承知をしている。そういった内容も十分承知をした中で、新年度の予算を認めていただければ、具体的に進めていきたいと考えている。実際に進めていくにあたり、具体的な内容で、地域協議会の皆様に説明の必要があるのではないかという場合は、また改めて伺わせていただきたいと思いますのでご理解を賜りたい。

引き続き、田中実委員の質問にお答えさせていただいてよいか。私の理解の至らないところもあるので、少し確認をさせていただきながら進めたいと思う。まず一点目。歴史・文化が直江津にはないのか、実効性がないというのは、具体的にはこういったところが、そのようにお感じになられたのか。

【田中実委員】

一つ目の歴史・文化については、この通年観光計画に載っていないものが結構あるの

ではないか。親鸞聖人や他にもいろいろあると思うが、そういったものが歴史であるので、そういったものを取り入れていただきたい。加賀街道も皆さんご存じだと思うが、今回の津波でごみがものすごくなっている。脇の資材が積んであったところが、昔の本当の加賀街道の跡である。そういったところをもっと研究してほしい。

【魅力創造課：渡来課長】

一つ一つ、お答えをさせていただきたい。

【田中実委員】

そういう感じであれば、時間の面もあるから今はいい。

【魅力創造課：渡来課長】

改めて確認だけさせていただき、文書でお答えする形でよいか。この場でお答えできるのであればということだったので、今ご説明させていただこうと思ったが、確認だけさせていただき、改めて文書でお返しをさせていただくという進め方でよろしいか。

【青山会長】

了解した。

【魅力創造課：渡来課長】

一点目は承知した。二点目が、キャッチコピーが多いという理解でよいか。

【田中実委員】

何回も言っているが、表紙を見れば、キャッチコピーがものすごい。言葉はとて面白いが。

【魅力創造課：渡来課長】

承知した。

【磯田副会長】

今確認していこうとすると15項目もあるので、今田中実委員がおっしゃったことを事務局と確認していただいたり、私が入ってもいいので、後日質問の内容をもう一度きちんとお伝えして回答してもらおうということで、他のご意見もあるので、今日はすぐには回答なしで、或いは確認も後日ということで進めていただければありがたいと思うが、事務局それでよいか。

【魅力創造課：渡来課長】

承知した。

【佐藤所長】

承知した。

【魅力創造課：渡来課長】

答えが不正確になると申し訳ないので、今、磯田副会長からもお話をいただいたが、もう一度質問の具体的なところも私どもに教えていただくと、的確なお答えができるものであればさせていただきたいと思うので、会のほうで是非お願いしたい。

【佐藤所長】

事務局としても質問・意見は文書でお出しいただきたい。間違った答えを魅力創造課からいただいても、手戻りになってしまうので、田中実委員の思いを文書にさせていただいて、それについて一つ一つ回答をしていくようにしてはいかがか。

【青山会長】

そのように田中実委員、お願いします。

他にないか。

【田村委員】

この計画に対して、予算がどのぐらいつくのかといった予算のことばかり頭に入っていて、これはどのぐらいでできるのかが全く見えずコメントのしようがない。先ほど古澤委員が言われたかもしれないが、これにはこのぐらいの予算がかかる、市議会との予算との関係があるのだから、なかなか出せないと思うが、このぐらいのイメージでというものがあるとよい。今春日山地域のほうを重視して、全体で30億、直江津は10億、高田は2億と言われたが、その概算数字だけ出て、細かい点で、これは大体このぐらいの予算ではないかというくらいはないと全然イメージが沸いてこない。それと実効性について、これで本当に市民の理解を得られるのか、私どもの胸にドンとくるのか、そのへんもイメージ戦略として少し弱いという印象である。立派な計画だと私は思う。なにしろ50億もかけるのだから、そのへんのことを心配するのは当たり前のことである。

【魅力創造課：渡来課長】

例えば、90ページの右下をご覧いただきたい。字が小さくて大変申し訳ないが、概算事業費ということで、①上越市鉄道遺産群活用基本計画の策定、②直江津D51レールパーク拡充整備というように、概算事業費を出させていただいている。予算がまだ正式に議会でも、これから実際に動かしていくときにはお認めをいただくということになるので、この事業費で確実に何がどういうふう具体的に進んでいくのかということとは、

先ほど古澤委員にもお答えしたとおりこれからのところになるので、そこはご理解をいただきたい。

もう一点、実効性のところは、まさにご懸念のとおりで、この計画を作るにあたって五智、駅南等、いろいろな商工会の会長さんにもメンバーに入っていていただき、市長も実際に出席をさせていただき議論させていただいた。もちろん磯田副会長からも入っていて、いろいろな意見交換もさせていただいた。検討はそういったメンバーでさせていただいたが、実際にそれぞれをどう進めていくかということも、予算とあわせてこれから考えていかなければいけないと思う。地域協議会委員の皆様からも、是非お力添えをいただきたい。そのあたりを進めていきながら、具体化していきたいと考えている。

【丸山委員】

これだけの計画を短期間で作られたことにまず敬意を表したい。私は直江津へUターンしてきて15年になるが、いろいろな計画が今まで直江津地区でもあったと思う。ほとんどが実現できていないということがある。ペーパーだけで終わってしまった。それはなぜかという、実施主体が最後まで決まらないということがある。実施主体が決まっているところはやっていた。高田地区の「2核1モール」もそうである。これも、具体化を進めるにあたって実施主体もあわせて探す、手を挙げてもらうかする。実施主体は財政的に体力のないところも多いので、そのあたりも頭に入れていただきながら、実施主体も早めに見つけていただきたいと思う。

【古澤委員】

商工会やいろいろな方々が集まって意見を聞いていただいたということだが、直江津の町を活性化するには、やはりお年寄りが多い。老人会も呼んでもらったり、地区連合青年会といった組織もあるので、あらゆる分野から意見を聞き取って、「じゃあこれにしよう」といった一体感があれば、皆さんそこに参加してくれるだろうし、観光誘致にも大きな力を発揮してくれるのではないかと考えている。小学校でもいい、幼稚園でもいい、そのあたりから幅広く集まっていただいて、みんなの意見を構築する中からやっていただきたいと思う。まだ時間があるので、そのあたりも含めて考えていただきたい。

【増田委員】

いろいろ皆さんからご意見が出ているが、具体的な進め方がまだはっきりは見えていないということで、今古澤委員もおっしゃったが、地域や地域の団体がしっかり係わらないと、この計画が進められないということはよくご存じのとおりだと思う。観光とい

うのは観光業者や行政が進めるのではなく、市民が進めるものである。そのところはわかっていらっしゃると思うが、その原点に立ち返って進めていただきたいと思います。計画を策定する前はいろいろな皆さんから意見を聞いているが、計画ができたということに住民の皆さんにしっかり説明をして、理解してもらおうということが必要である。パブリックコメントをかけたから住民の皆さんに説明したではなくて、機会を設けて住民の皆さんに集まっていただき説明をするということが必要だと思う。直江津区地域協議会も、直江津の観光については直江津まちづくり構想ということで、ずっと取り組んできている。非常に関心が高くなっているので、パブリックコメントで回答を出して、それで終わりになっているが、回答が来たところが本当はスタートである。地域協議会としても、いかに実効のある観光計画になるかということを実際に考えていきたいと思うので、それ以後も地域協議会と話を一緒に進めていくという、その体制を是非とってほしいと思う。それから丸山委員から話があった、検討するとか計画するというように書いてあるが、具体的に誰がどうやって検討するのか、誰がどうやって計画するのかがない。おそらく検討や計画に対しては、特定の業者さんをお願いするようなことになるかもしれないが、議会でもかなりいろいろと質問されていて、そのあたりをはっきりさせていただきたいと思う。予算については、ここに概算の予算が書いてあるが、この概算予算はどうやって作ったのかと思う。おそらく議会にも、この内訳、例えばレールパークについての4億何千万の内訳が議会に出るかということと必ずしもそうではない。しかし、どういう内容をどうするのかということがないと、予算ができない。その予算をどうやって組み立ててあるのか疑問があるが、この予算を認めてもらったから、これだけ使ってもいいという発想でやってほしくない。この予算を精査すれば、もう少し少ない予算でもできるだろうし、足りない部分も出てくる。その余地を残しておかないと、議会を通った予算だからこれでいく、では困る。そのあたりについて、是非配慮をお願いしたい。

もう一つは、通年観光、直江津の観光とあるが、これも何人の方からも意見が出たが、直江津の祇園祭についてどのようにして発信していくのか、どのようにしてお客さんを呼び込むのかについて細かい説明が全然ない。同じことが、例えばこの前のワークショップでやったとおり、三八市は直江津の非常に大きな観光資源だが、そのことについてほとんど記述がない。ここになくても魅力創造課として三八の朝市については、私たちと一緒に考えてほしいと思う。さきほど歴史のことを言ったが、五智は歴史の里である。すごく深い歴史があるので、この歴史を尋ねて来られる方がかなりいる。このことにつ

いてはこの中で全然触れていないので、是非検討の中から外さないでほしい。同じく五智公園も市民の公園として、五智の八重桜も一つの観光資源になっているが、そのことについてもこの中では全然触れられていないので、落とさずに是非加えてほしいと思う。

【魅力創造課：渡来課長】

今三人の委員からご発言いただいた。共通点が一つ、体制についてということである。せっかく皆様とともに作った計画であっても実現しないと意味がない、そういったところが原点としておありだと思う。そこは私どもも同じ思いで、皆様がおっしゃるように当然行政だけが進めていくものではない、進められるものではないし、皆さんのお力をお借りしながらともに進めていくものだと思っている。そういった中では、まちづくりのパートナーとなってくださる方が、これからどんどん出てきていただきたいと思っているし、現状でも海沿いの清掃活動を一生懸命やってくださっている方がいらっしゃるということも十分お聞きしている。そうした皆さんとも、少しずつ、こういった形で連携が図れるのかということも私たちも考えながら進めていきたいと思っている。

スピード感が足りないのではないかというご意見をいただいたが、スピード感を持ちながらも、そうした皆さんと話し合いを重ねていくということも同時に大事だと思っているので、バランスが難しいと思うところもあるが、最大限そのあたりは注意を払って進めていきたいと思っている。

増田委員のご発言が何点かあった。地域への説明を十分にしながらということで、それについても私たちも同じ思いであり、どのようなタイミングで、どのようにご説明するかは迷いながら進めているところである。地域協議会を始め、タイミングを私たちなりに計りながら、皆様のご理解を得た中で合意形成に注意を払っていきたいと考えている。

予算については、今回総額50億ということになるが、例えば高田が先ほど2億しかないというのは、魅力に欠けるということかというご意見もあった。一方で、うみがたりについては113億円という予算を過去にかけたことがある。それから高田で申し上げると、地方創生という取組の中で、旧師団長官舎、今井染物屋、高田小町、いろいろな投資をしてきた。高田は次のステージに入ったということで、ソフト的な取組が中心になっていることもあり、予算的にも抑えられている。そういう意味では、高田、春日山、直江津、それぞれの町の状況を踏まえながら今回案を考えさせていただいたが、かといってその予算がすべて良いのかというと、一つ一つ精査していく必要があるのだろうと

思っているので、そこは貴重なご示唆ということで、改めて気を引き締めて参りたいと思う。

最後に、五智は歴史があるところだというご意見については、確かにそのとおりである。先ほど田中実委員から、直江津はいろいろな貴重ないいところの資源があるのに載っていないといったご意見があった。私たちも、今回いろいろなことを勉強させていただき、いろいろな意見交換を様々な方とさせていただいた。直江津地域が非常に豊かな資源があるということは、私たちなりに62ページ以降にまとめさせていただいた。例えば、福島城を核として活動されている皆さんもいらっしゃるし、直江津港のターミナルでは、佐渡金山が世界遺産に認定されると佐渡汽船が玄関口になるというような魅力もある。久比岐自転車道も直江津の貴重な一つの資源だと思っている。そうした豊かな資源がある中で、すべてを同時に生かすことができればそれに越したことはないが、一方で、どうやって実現していくのか、まずは何に手をつけていくか、まずは何を生かしていくかと考えたときに、今回海沿いと商店街、レールパークにまずは手をつけていく、まずはその魅力を、なお磨きをかけていきたいと考えた。その後にはもちろん五智や港のほうにも手を伸ばして、広げて、魅力をさらに増していきたいと考えているので、その点についてもご理解をいただきたいと思う。重ねて申し上げるが、そうした直江津の魅力を私たちとしても決して軽んじていることではなく、実現していくためにまずは焦点を絞ったということであるため、ご理解いただき、是非一緒に進めていきたいと思っている。

【増田委員】

方向性をお聞きしわかったが、これからいろいろなことがどんどん決まっていくと思う。先ほど私が申し上げたように、直江津区地域協議会としてもこの地域をどういうふうにしようか、どうやっていこうかということで審議しているので、決まったことがあれば地域協議会に是非知らせしてほしいと思う。それが一緒に進んでいくという方法になると思う。例えば、住民の皆さんに説明するとき、市が主体でやる方法もあるが地域協議会が主体でやる説明会も考えられると思うので、そんなこともイメージしながら一緒に取り組んでいきたい。

【魅力創造課：渡来課長】

ありがたいご発言、ご助言に感謝申し上げます。是非お願いしたい。

【磯田副会長】

渡来課長から、地域の団体として意見交換をということで名前を出していただいたので、一応お話しておくが、直江津の場合、まちづくり活性化協議会という団体があり、地域の人たちと話すということがその団体だけで完結していて、その中でも私は海沿いのエリアの話のときにしか出ていない。

基本的なコンセプト、通年観光をどう捉えてどのようにしていけばいいのかという原点の議論はなくて、具体的話、直江津の中での取組についての話で3回協議をしたというのが実情である。なので、市民の人たちの理解を得ようという動きには、私はなっていなかったと感じた。3地区の市長との対話集会にも出たが、きちんと質問に答えていただけなかったし、計画そのものはもうすでに作られているこの道筋の中でしか協議していくことができないような状態であった。今パブリックコメントが出ているが、少なくともやっぱり地域協議会という組織、或いは役割の中で、この計画を協議会に説明、パブリックコメントに出すまで何も話がなかったというのは、それは考えられたとおっしゃっているが、もう少しいろいろな団体や市民の人たちからきちんと意見を聞く、或いは計画がきちんとできる前に協議をしていくという姿勢が大切だと思う。これは、直江津区の住民の生活に資する計画だと私は思っているが、地域協議会の諮問に出るのか出ないのか教えてもらいたいのと、これから前を向いていくときに、住民や、ここに書いていないことをどのように拾い上げていただけるのか、先ほど増田委員の提案にあったようなことを、一緒に考えていく、プロセスの中で実行していただけるのかお聞きしたい。

【魅力創造課：渡来課長】

ご質問の趣旨を理解いたしかねるところがある。具体的に言うとどういうことか。

【磯田副会長】

例えば、これが諮問に出るということはないかと理解してよいか。

【小川係長】

諮問しなければならない事項ではない。

【磯田副会長】

生活に支障があるとしてもということか。市長が諮問しないと出てこないのだが、協議会への諮問はないことを承知した。

先ほどのいろいろな方と計画案を練っていく、或いは実効性のあるものを作っていくという話の中で、地域協議会や町内の人との意見交換などの場は作っていくという認識

でよいか。

【魅力創造課：渡来課長】

増田委員にもお答えしたとおり、どのタイミングでどなたと、どのように話し合いをさせていただくかは私たちも手探りのところがあり、少し考えさせていただきながら進めていきたい。

【青山会長】

他になれば、この件については終了とする。

－ 魅力創造課 退室 －

次に、その他について、事務局から説明をお願いします。

【小川係長】

- ・次回協議会：2月27日（火）午後6時30分から
- ・活動報告会：3月3日（日）午後1時30分からとし、終了後地域協議会を開催予定

【青山会長】

他に皆さんから何かあるか。

【増田委員】

事務局へのお願いだが、先般の地震に関して、町内会長さんに危機管理課からアンケートが来ている。そのアンケートがどういうアンケートだったのかを、事務局で確認して私たちにも知らせてほしい。なぜかという、地域協議会でこれからいろいろと審議しなければいけないようなことが、アンケートの質問の中に入っている。どんな質問がされているのかを確認したい。もう一つは、今回の地震では、8号線から海側が非常に揺れが大きかった。住民の皆さんも避難について非常に混乱したが、よく聞いてみると8号線から向こう側の人あまり避難行動等を取っていない。避難所の問題も、海側の方で多く出ているということについて、北部まちづくりセンターとして、直江津区8号線から海沿いの町に対してどういう問題があって、どういう体制をとらなければいけないかということは、ある程度把握しておく必要があると思う。上越市全域で把握すると、あまり被害がなかった、混乱がなかったと集約されてしまうと困るので、直江津区としてどういう問題があって、どのようなことを今後検討していかなければいけないか把握してほしいし、私たちも直江津区地域協議会として、どういう問題があって、どういうことで住民の皆さんが混乱したのか、困ったのかということをしかりとお聞きし、地域協議会として対処すべきは対処するという体制をとっていきたいと思う。

【田中実委員】

私も能登半島地震のことについて一言申し上げたい。2月1日の新聞記事で、津波避難の課題の検証がされていた。主要道が渋滞して移動ができなかった。高齢者も移動できなかった。避難所の利用はほんの一部にとどまるといった状況だった。上越市のハザードマップ作成に係わった、大学教授が述べられていた。記憶が強く残っているうちに、行政や自主防災組織による訓練、説明会などを開き、今回の津波、被害を振り返ってほしいということで、ただ地域協議会で話をしたというだけではなく、担当課へも伝えていただき、対応していただける部分があるかと思う。

【古澤委員】

2月1日町内会長協議会の総会後の席に、青山会長や地元市議からもご出席いただいた。その中で、地震のときの対応ということでいろいろ話をした。いろいろな課題が浮き彫りになってきている。突然のことで、津波が来るとは思っていなかった。日本海は津波がないと、大学教授から聞いていたこともある。それが、あの大きな揺れとともに大津波警報、テレビを見れば3m、これでは皆さん慌ててしまう。各町内会長さんは、避難誘導、避難場所や避難所等で非常にご尽力されていた。場所にもよるが、朝方まで住民の方がいらっしゃった避難所もあった。その中で、避難所の対応については非常にばらつきがあったなど、細かいことを言えばたくさんあるが今日は割愛する。例えば、直江津小学校区は避難所の鍵が開かなかった。鍵を預ける場所が1か所だった。港町は、10人の方が持っている。レインボーセンターは、四ツ屋と旭区の町内会長さんが持っている。今までは避難所というと、1か所でいいだろうと思っていたが、最低でも2人か3人は持っていて対応しないと駄目だということになったので、私からたくさんある指定避難場所の会議を1回やってほしいという文書を出していこうと思っている。避難所対応の市の方も知識がいる。避難所に来てどうするか、布団やストーブ、食べ物を分配する等、いろいろな部分で想定外のことがたくさん出てくる。たまたまあの日は天気も良くてなんとか進んだが、国道あたりは大変だったらしい。直江津沖にF12という断層があり、その断層がまた一緒になって出てくると、またこの間と同じ津波が来ると言われている。そのへんも含めて、地域協議会としても地域ぐるみの防災活動に取り組んでいるので、声を大にしながら直江津地域の住民の立場を守っていきたいと思っている。

【青山会長】

地域協議会としてアンケートを取る等は、古澤委員の発言の中には入っていないという事でよいか。

【古澤委員】

それは、もう少し待ってほしい。9日までに出してみてもどうなるのか、そのあたりをフィードバックしてもらいたいと思っている。11月末に避難訓練についての調査があり、この項目について私のところへフィードバックしてほしいと書いて提出したが、まだ来ていない。真剣に考えていただきたい。例えば、津波の看板も今はそんなにない。こちらから要望したときに、やってあると書いてあった。たまたま日曜日に津波が発生して、看板があれば、ここは何mだと知らない方でもわかる。大事な事なので、そのあたりからきちんとやっていきたいと思う。

【田村委員】

私どもは比較的海より遠い。避難所へ行ってテレビを見たときに柏崎は40cmとあり、まさか直江津に、この間5.8mと言っていたが、そんな津波が来るとは思わなかった。上越市には潮位計がないという話を聞いた。柏崎市はおそらく原発があるから潮位計があると思うが、上越市がそういう点で遅れていたかどうかはわからないが、そういったテレビの報道も、安心感を油断させた一つの大きな原因かもしれない。柏崎が40cmなら、直江津はたぶん大丈夫だろうと私どもの地域でも思っていた。

【青山会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。